

地域人材・資源活用推進事業 通信 第3号

東京都立七生特別支援学校

令和5年12月

テーマ 「住んでいる地域を知り、自分たちの取り組みを地域へ発信し、
ともに響き合う理解推進を！」

帝京大学との教育連携で、特別支援教育の情報を発信しよう

今回は、地域人材・支援活用事業における七生の3つの取り組みのうちの「帝京大学との教育連携で、特別支援教育の情報を発信しよう」についてご紹介します。

〈本取り組みで目指すところ〉

- ① 大学構内での作業製品販売活動を通し、言語能力の学びの質の向上を図る。
- ② 特別支援教育啓発ブースのコーナー設置を通し、情報発信のための情報活用能力の向上を図る。
- ③ 販売でのやり取りを通し、生徒自身がどのように情報発信していくことが特別支援教育の理解推進に繋がっていくかを考える機会をもらう。

帝京大学の御協力のもと、高等部流通サービス班を中心に10月に2度の作業製品販売と、学園祭での特別支援教育啓発ブースの運営をしました。

作業製品の販売では、高等部のクラフト班やリサイクル班の製品や、食品加工班のクッキー、レインボーカフェのコーヒー等を販売しました。販売ブースは多くの学生に興味をもってもらい、大盛況でした。また、学園祭の啓発活動では生徒が自らブースに立って教材の使い方説明や、作業製品の説明等を行いました。3回の活動をとおして、自分たちの作った製品や接客に対する温かな反応やお客様からの「ありがとう」の言葉に自信を深め、自分たちが地域社会の中で役立つことの手ごたえを感じた様子でした。



八王子キャンパス構内での販売は2回とも大盛況で、定期的に来てほしいという嬉しい感想もいただきました。



帝京大学の中村准教授と中村ゼミの学生の方たちには会場設営や当日の運営でサポートしていただきました。

初めは緊張していた生徒たちですが、回を重ねるごとにお客様にすすんで関わろうとする姿が見られるようになり、言葉掛けも徐々に大きくなりました。終了後の感想の中には、「緊張したけど頑張りました。」「自信ができました。」という声や「もっと笑顔でお客様の顔を見られるようになりたい。」「質問されたことへの返答をうまくしたい。」など自身の課題に気付き、今後の活動に繋げようとする前向きな声も聞かれました。